



山田日吉神社境内の「山田の藤」

町並みについて

- ◆山田地区は山田日吉神社とその相殿の白山宮、及び同神社の神宮寺山田山吉祥寺を中心に鎌倉期から修験道の道場として発展しました。現在は、地区内に十二の坊跡(白山宮十二坊)が残り、十二坊の祭礼が行われています。
- ◆町並みは、集落の南から北へまっすぐに通る約800mの馬場とよばれる山田日吉神社の参道に沿って農家が建ち並び、静かな農村集落を形成しています。
- ◆かつて、玉名地方の天台宗の拠点的な地域であり、白山系の修験道の拠点でもあったと考えられており、「玉名の比叡山」とも呼べる貴重な信仰の歴史を今に伝えています。



十二坊塔碑(徳蔵坊)

町並みの中心(核)となる伝統的建造物

山田日吉神社

- ◆708年の創建と伝えられます。本殿に大山咋神(おおやまくいのかみ)、西の相殿に白山比売神(しらやまひめかみ)を祭祀しています。信仰の中心は修験道で、修験者(山伏)は集落に坊を持ち、室町期に最も繁栄したといわれています。
- ◆境内には県指定天然記念物の「山田の藤」があり、春になると清らかな芳香が漂う淡い紫色の花が咲き誇り、人々を楽しませてくれます。

集落内の各所に所在する十二坊跡は、多くは旧状を保ち、祭礼記録帳と共に子孫等に受け継がれ現在に至っています。十二の各坊は、自宅の敷地内、自宅より離れた藪の中などに笠塔婆、五輪塔、宝塔、板碑、自然石を守護神として祀っています。

